令和５年１０月２５日（水）

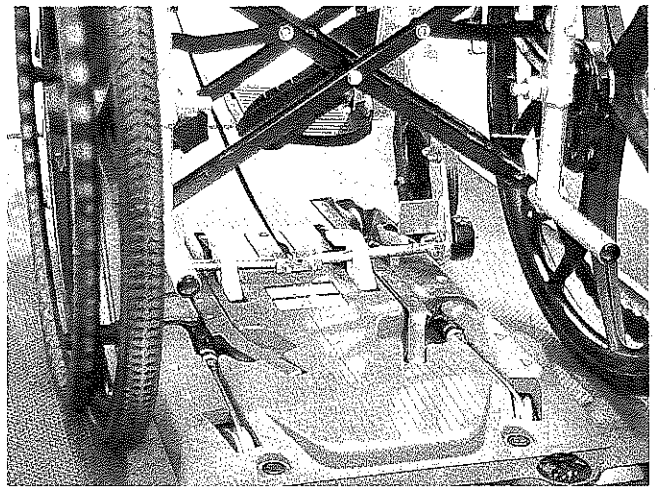
日刊自動車新聞１面

ワンタッチで車いす固定

簡易装置の規格化に着手

開発加速 後押し 早期の普及へ

自動車・車いすメーカー



アンカーバーにより、ワンタッチで車いすの固定が可能だ

自動車メーカーと車いすメーカーによる「車椅子簡易固定標準化コンソーシアム」は、車いす用「簡易固定装置」の規格化に取り組む。ワンタッチで車いすを固定できる装置を普及させ、車いす利用者や介助者の負担を減らす。すでにガイドラインを策定しており、これに沿って参画企業が製品開発を急いでいる。今後はガイドラインを規格に格上げし、デファクトスタンダード（事実上の標準）化につなげる。

事実上の標準化目指す

現在、車いすを車両に載せるには、車いすを数カ所、ベルトで床などに固定する必要があり、車いす利用者や介護者の負担となっている。後期高齢者の増加により、病院や介護施設の送迎で車いす移動車の需要は増える見込み。共通の簡易固定式装置を普及させ、容易に車いすを固定できるようする。

コンソーシアムはトヨタ自動車やホンダ、スズキ、ダイハツ工業、日野自動車、いすゞ自動車など自動車メーカーと、日進医療器やミキなどの車いすメーカーが参画して2022年4月に設立。23年4月には簡易固定システムのガイドラインをまとめた。参画企業はガイドラインが規格化されるまでの間、商品開発の指針としてガイドラインに沿って車両や車いすを開発する。

簡易固定システムの仕組みは、車いす下部に取り付けた「アンカーバー」を、車いす移動車に搭載した装置に引っ掛けて固定する。従来の数カ所のベルトによる固定が不要となる。車いすの車移送安全に関する規格「ISO7176―19」（時速48キロメートルでの正面衝突テストなど）への適合を考慮することを条件に、アンカーバーの取り付け位置などを定めた。

トヨタは「ハイエース」、スズキは「スペーシア」に開発中の固定装置を取り付け、福祉関連の展示会で車いす利用者や介護者の声を聞き、実用化に向けて改良を重ねている。ダイハツなど、ほかの参画企業もガイドラインを基に固定装置の開発に着手した。

大東建託は24日から、子会社で介護事業を展開するケアパートナー（白井孝和社長、東京都品川区）の介護施設で簡易固定装置を搭載したハイエースを1台導入した。まずは東村山市にある介護施設の送迎用として活用する。今後は6カ所の施設に1台ずつ送迎用に導入し、安全性や送迎時間の短縮などを5月末まで検証する。